

令和5年度 第3回 学校運営協議会 議事録

令和6年2月6日（火） 9：45～11：45

<参加者>

協議会委員 徳増 久子 様（障がい福祉サポートセンター「ゆうとうの風」センター長
相談支援事業所「風の路」所長）
柴田 詩子 様（湖西市民生委員 主任児童委員）
内山さよこ 様（湖西市教育委員会学校教育課指導主事）
坂下 真一 様（浜名学園） 杉田 洋一様代理
河合 梓 様（プライムアース EV エナジー株式会社）
菅沼 良枝 様（本校 PTA 会長）

学校関係者 校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、教務主任

<議事録>

校長挨拶：年明けに能登地方で大きな地震があり、七尾特別支援学校の分校は再開のめどが立たない状況が続いていた。昨日、輪島分校がようやく始業式を迎えた。本校でも、いろいろなことを想定して、災害に備えておかななくてはならないと考えている。また、コロナ禍を経て、様々なことの見直しを行い、より良い教育活動を模索してきた。地域とのつながりのある学習は、この場の皆様のお知恵をいただきながら積極的に行ってきた。今年度の学校経営計画の報告では職員とは異なる立場からの御意見をいただきたい。

（1）令和5年度学校経営報告書（自己評価）（教頭） 別紙資料

教 頭：今年度の学校経営の重点12項目について自己評価を行った。A～Dの4段階評価を行い、加重を付けて評価分析をした。

- ① 避難訓練等の防災教育の実施（A評価）
- ② 栄養教諭と連携した食育の充実（A評価）
- ③ 事務部との連携による早期対応と環境整備（A評価）
- ④ 教師が手本となり、安心して授業に参加したり、発信したりできる環境（A評価）
- ⑤ 関係機関との情報共有や連携（B評価）
- ⑥ 研修会や学習会を活用した自立活動の充実（B評価）
- ⑦ 互いに協力し、助け合って仕事をすることによるチーム力の向上（B評価/A評価）
- ⑧ 業務改善推進への取組みや積極的な業務の見直し（B評価）
- ⑨ 児童生徒がワクワクする姿と主体的に取り組む姿を実現する授業（A評価）
- ⑩ 家庭や地域への分かりやすい情報発信（A評価）
- ⑪ 校外作品展等、本校の学習活動の発信（A評価）
- ⑫ 児童生徒が自らを表現することができる交流籍交流や学校間交流（A評価）

<安全で安心な学校生活について>

E委員：我が子は、今までの避難訓練では、いつもと違うことが起きているというくらいの感覚だったが、総合的な学習の時間で、1か月間くらい防災学習をしたことにより、子どもが楽しみながら、防災意識を身に付けていることを感じた。本人は環境の変化に弱いので、この学習があったおかげで、今度は大丈夫ではないかと思った。

司 会：防災教育は怖いより、楽しいくらいが良いのかもしれない。災害時には、学習で経験したことが、生きてくると思う。

B委員：小中学校では3学期間で段階を追って防災学習を行っている。防災意識は高くなってきているが、まだまだ十分ではない。

司 会：防災教育は、教育課程の中で、繰り返し行っていくことが大事なこと。本校は経営計画に位置付けていることが良い。今回の能登地震についても、一日で終わるわけではなく、学校が再開されるまでに長い時間掛かっている。長丁場を想定した学習をしていく必要はある。高等部の生徒なら、どの様にその状況で力を生かせるのか。自分のことだけでなく、周りに貢献できる力を付けていくことが大切になってくる。自分だけでなく、周りに目を向け、みんなで避難できるようになると良い。

司 会：食育に関することも、栄養教諭が授業に参加していて良い評価であった。

A委員：幼稚園に在職中、子どもたちは自分で育てた食材は、手に取って感触を味わい、食べてみようと思えることを実感した。本校では栄養教諭が入って食育をしているので素晴らしい。

部主事：小学部も高学年が野菜の栽培をしている。中学部も学年によって行っている。

<専門的指導力の向上について>

司 会：個別の教育支援計画の情報共有についてB評価となっている。浜名学園さんは卒業生が利用しているので、情報共有やフィードバックについてはどうか。

C委員：コロナ禍があって、なかなか交流ができない状況だが、徐々に学校との交流ができればと思う。ただ、24時間過ごしている利用者さんにとって、感染症が入ってきてしまうことは気を付けなければいけない。

司 会：コロナが5類になったとはいえ、インフルエンザやその他、心配なことはある。触れ合うことによる互いのメリットがあるので、交流ができていくと良い。

個別の教育支援計画などを活用した情報共有は、一方的ではなく、お互いに知りたいという気持ちをもっていくと良い。そのような発信を学校全体でもしていくと良い。

<働きがいのある職場づくりについて>

D委員：プライムアース EV エナジーでは、学びの場の提供の一つとして、親会社に出向して学んでくる事業がある。浜名特支では、体の使い方を理学療法士に学ぶ取り組みがとても良いし、専門性の向上にもつながる。

司 会：学んだことを、周りに伝えることまでが十分できていると、よりみんなのものになるので、学んできた人が、しっかり熱量をもって、周りに伝えていってほしい。

<主体性を発揮できる授業づくりについて>

司 会：授業づくりは、学んだことが具体的にどう生きていくのかをイメージしていくことが大切。同じことの繰り返しではなく、対象の子どもが違っていると、学ばせること、内容も違ってくるはず。これからも授業で勝負して欲しい。

<地域とつながる活動の推進について>

E委員：ホームページでは給食や学部の様子を見ている。子どもは学校の様子を話してくれないけれど、連絡ノートとホームページで様子を知ることができている。

校 長：これからはホームページだけでなく、時代に合わせたSNSの活用を考えていきたい。他校ではインスタグラムを始めているところもある。情報発信については危険性もあるので、慎重に進めていく必要がある。

E委員：岐阜の学校ではユーチューブチャンネルを発信していて、PTA活動もそこで発信しているとのこと。ユーチューブなら子どもたちも見るので、親子で見て話をすることもできる。

司 会：いろいろな発信の方法が増えてくると良い。ただ、情報発信に関しては常に危険性もあるので、学校側は苦労していると思う。

司 会：交流教育については、良い表情で活動している様子がたくさん見られた。

小部主事：多い子で、年3回実施している。短い時間から始めて、少しずつ増やしていくことが多い。小学部では、半数以上の児童が実施している。

中部主事：中学部では今年度の直接交流は3人実施した。

司 会：授業や授業時間外（朝の会、行事）などで直接交流を実施することは、お互いに効果がある。これからは、地域で生きていく、地域で顔を見知っているという状態を作っていきたい。年齢が高くなってくると、お互いに難しくなってしまう面もあるので、できるだけ小さいうちに交流していくと良い。

<全体を通して、各委員からの御意見と評価>

B委員：先生方が日々の実践を振り返りながら評価しているので、同様の評価でA評価。

A委員：防災のことで、有事の理解が難しい子どもにとって、1か月掛けて少しずつ浸透させている計画が素晴らしいと思った。A評価

D委員：実際に体験することは、学ぶことの深みにつながるし、興味の幅も広がる。A評価

E委員：食に関する取り組みも取り組んでおり、子どもがいろいろと食べられるようになった。
A評価

D委員：防災面、非常食体験などが素晴らしい。A評価

司 会：防災の取り組みは素晴らしいが、もっと頑張れると思うので、期待を込めてB評価。
人権に関するところは、ずっと大切にしていかなければならない。常日頃、人権意識を高く持ってほしいと願っている。

<専門的指導力の向上について>

C委員：自立活動の課題など今後も取り組んでいってほしい。(項目順にBAB B)

E委員：個別の教育支援計画を放課後支援施設でも活用している。(A A A B)

D委員：先生方の専門性の向上を図るための研修等はとても良い反面、負担も多く掛かっていると思う。本来の教育業務に専念できるサポート体制も必要なのでは。(A B 半分ずつ)

A委員：一人一人に合った個別の指導計画を作っていくことはとても大変であると思う。外部講師から学んでいる点も良い。A評価

B委員：学校自己評価のB評価はもっと学びたい、伝えたいという向上心の表れ。時間のないうちで、今までやっていたことをスリムにしたり、軽重を付けたりしながら、研修を進めてほしい。(B A B B)

司 会：授業を常に頑張っていることは伝わっている。前向きな気持ちの表れとして期待値を込めて、学校評価と同じ評価。

<仲間づくりについて>

B委員：児童生徒が真剣に取り組んだり、安心して笑顔を見せたりしている。A評価

A委員：先生たちが子どもの表情を見ながら、将来に向けて様々な取り組みをしている。A評価

D委員：お互いの個性を尊重し合う教育ができています。A評価

E委員：我が子の学校での姿を見て、学校が居心地の良い場所だと感じている。A評価

C委員：授業の中で、生徒同士の関わりもあって良い。A評価

司 会：授業については、自分で頑張りたいと思う気持ちが大切。学校だからこそ人と学び合う場として、授業に取り組んでいる。A評価

<地域づくりについて>

C委員：地域との関わりやホームページでの発信を評価した。A評価

E委員：学校間交流が良かった。(項目順にA B A)

D委員：(SNSの活用の参考として) X (旧ツイッター) やブログを使えば文章ではなく、ハッシュタグで手軽に情報をあげられる。SNSはコンスタントに発信することが大切なので、手が掛からずに発信できる方が良い。(A B A)

A委員：人とつながることが、将来の自立につながっていく。A評価

B委員：交流圏の交流について、今年度、湖西市で職員研修をした。参加者に新居小学校出身の先生がいて、浜名特支との交流についてよく覚えていた。学校間交流がとても良い経験になっていることを感じた。A評価

司 会：真ん中の項目はいろいろ工夫しているが、他の可能性について検討しているので、何か良い方法が見付かると良い。保護者や地域だけでなく、もっと広く特別支援学校を知ってもらえることができると良い。(A B A)

(2) 令和5年度学部経営反省より

小学部：大谷選手からのグローブ贈呈式の様子を報告

校長挨拶：たくさんの御意見御感想をありがとうございます。防災については、災害後も長く続くということを念頭に、今後も体験から学ぶことを大切にしていきたい。また、教員が個をしっかりと見つめて、高い人権意識を持ち続けていることや、情報発信、授業づくりについて高い評価をいただきありがたく思う。これからも、良い授業をしていくことと、教員の負担を減らしていくことのバランスを取りながら、工夫を続けていきたい。来年度についても、授業づくり、災害を見据えた防災対策、事故等を未然に防ぐ、働きがいのある職場づくり、地域とのつながりなどを重点として取り組んでいきたい。

来年度からは、この学校運営協議会を年4回に増やしたい。今まで2回目に地域とのつながりについて御意見をいただいているが、それを具体的に進めたり、検証してたりしていく場がなかったので、3回目を設定して深めていきたい。

今後とも、本校をよろしく申し上げます。